

研究成果物等活用状況調査報告

■ 令和4年度 研究成果物等活用状況調査について

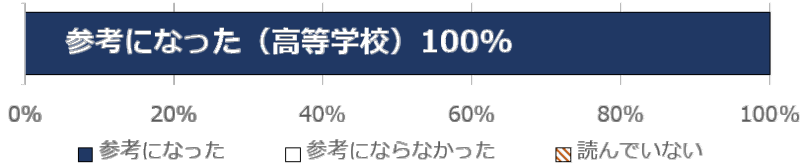
神奈川県立総合教育センターでは、今日的な教育課題について、学校現場での活用を目的に、実践的な調査・研究を実施しています。研究成果は研究成果物等としてまとめ、県内の学校に配付し、普及を図っています。

ここでは、県内の小学校104校、中学校55校、高等学校・中等教育学校44校、特別支援学校10校に御協力いただき実施した、各校での活用状況についての調査結果をまとめました。今後の研究成果物等の活用につなげていただければと思います。

■ 研究成果物の活用状況

※グラフは、調査協力校のなかで「参考になった」と回答いただいた学校数の割合を示しています。

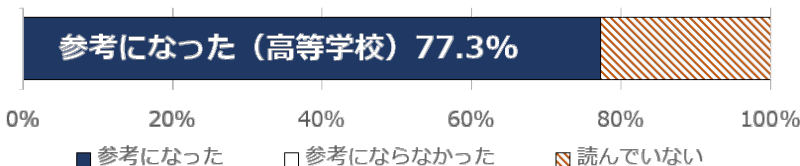
高等学校初任者のための授業づくりガイド 令和4年度版



中学校においても授業や生徒指導等、学校生活に必要な要素が織り込まれている部分を自分の言葉で対象者に伝えた。(中)

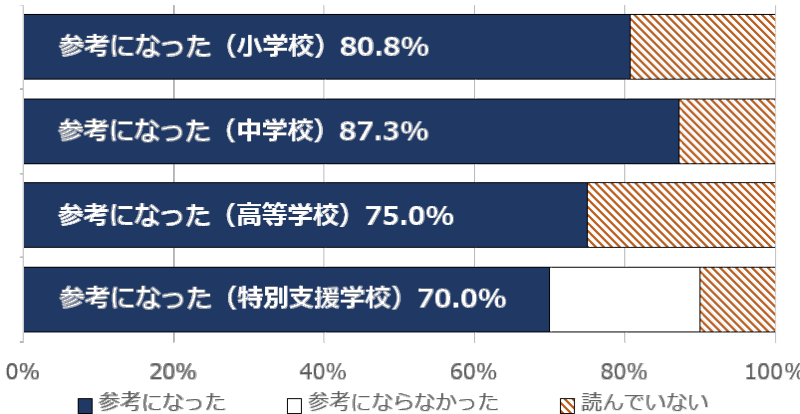
初任研や5年研の研究授業や、「単元の指導と評価の計画」の作成に活用した。従来の年間指導計画と新学習指導要領に基づく観点別評価、単元ごとの指導と評価の計画との違いが分かりやすく例示されている。(高)

令和3年度 高等学校教育課程研究会研究報告 第1集



各教科ごとに実践事例や指導計画などを参考に活用した。「主体的・対話的で深い学び」の実践事例、学習評価の方法、今後に向けての課題や成果などを確認でき、とても参考となった。(高)

支援を必要とする児童・生徒の教育のために 令和3年3月版



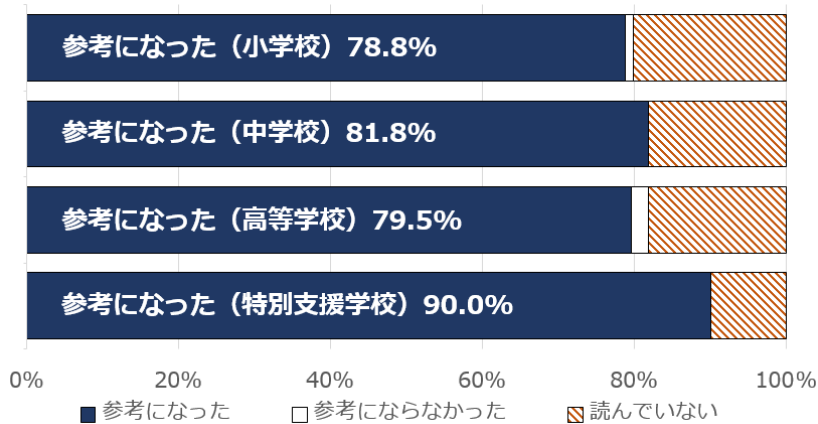
教育相談を行うにあたって、職員間での共通認識事項の確認や不登校の状態にある子どもたちへの支援の流れについてのフローチャートづくり等、とてもきめ細かく仕上げることができ、丁寧な対応へとつなげることができた。(中)

教育相談コーディネーターが外部講師として担当する研修の資料を作成する時に活用した。地域の教員等に向けて発信する際に、基本的な内容の確認として参考にした。(特)

これらの研究成果物等は、総合教育センターウェブサイトのトップから、「研究紹介・成果物について」→「研究成果物等刊行物」へ進むと、ダウンロードが可能です！



教育相談コーディネーターハンドブック



具体的な説明が記載されており、児童の見取りの参考にしたり、外部人材（SC等）と連携する際に活用したりと、実際の場面に即して活用を図ることができた。（小）

支援が必要な生徒の見分け方、教職員とのつながり、支援会議の立ち上げ方、外部機関との連携、具体例、支援シートなど初めてコーディネーターを担う先生の支えになる。また、Q&A方式になっているのも、理解しやすい。（中）

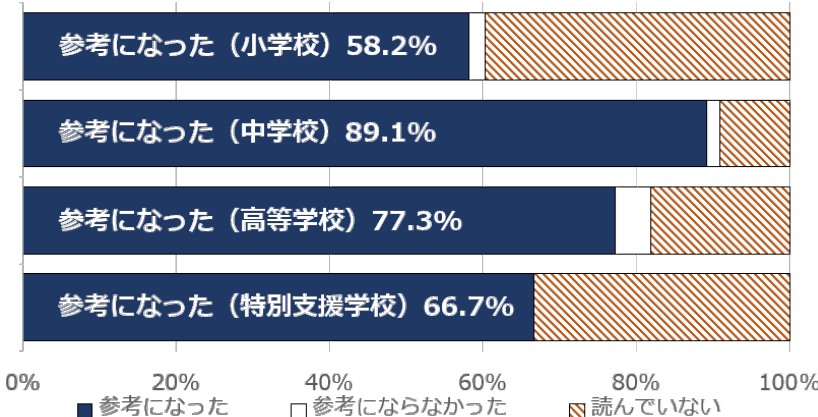
ケース会議シート活用をすることで、情報の共有がしやすく、生徒理解の深め方と効果的なケース会議の在り方について理解できた。（高）

すべての校種 すべての教科で プログラミング教育を（リーフレット）



校内でICTミニ研修を行う際に、内容のヒントとした。ビジュアル型プログラミングイメージやフローチャートイメージが具体的に見やすくまとめられている。各教科で取り組むことができる題材名や二次元コードも掲載されている。（小）

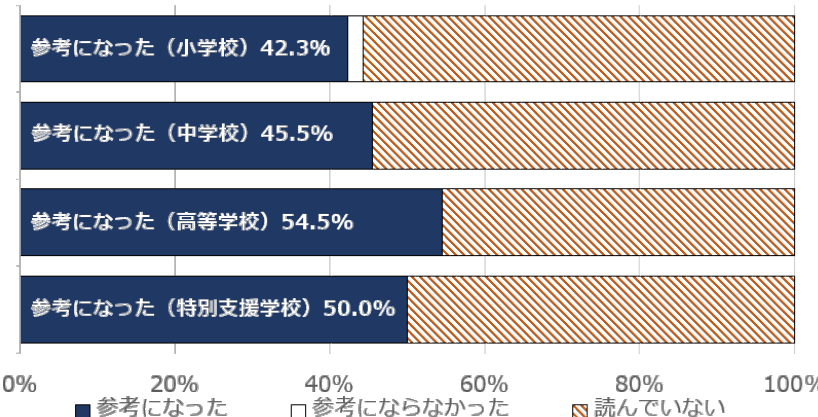
学習評価に関する研究〔最終報告〕



校内研修として、評価について研修する際の参考資料として活用した。授業の見取りを成績のために数値化することが課題であったが、この資料を根拠として評価の数値化について検証した。（中）

中学校での調査であったが、これまでの評価の仕方を見直すにあたり、課題や改善方針の検討に活用した。新たな3観点の内、「主体的に学習に取り組む態度」の観点について、中学校の先生がどのように感じているのかのアンケートや課題解決に受けた方策は参考になった。（高）

令和3年度 長期研究員研究報告書第20集の活用状況



校内研究または日常の授業づくりにおいて、報告書にある実践を参考にしてもらった。大変具体的であり、一時間分の授業づくりでなく、単元づくりという視点でまとめられているところも参考になった。（小）

特別支援学校と地域のつながりをどのように構築したらよいか参考となった。特別支援学校のために何かしたいという、地域の方の気持ちを汲み取り、その持っている技術を学校教育の現場で発揮してもらうにはどうすればよいかを知ることができた。（特）

いただいた御意見を参考に、総合教育センターでは、今後も、授業改善、人材育成、児童・生徒理解、支援教育など、学校のニーズに合わせた研究成果の発信に努め、「かながわの学び」を支援してまいります。

